

# 令和元年度 千葉市盲ろう者実態調査 報告書 (概要)

## 1 調査概要

### (1) 調査の目的

市内盲ろう者の生活実態を明らかにするとともに、本市における盲ろう者への支援策の検討の基礎資料とする。

また、同調査を通じて、盲ろう者への支援制度を周知することにより、各種サービスの利用を促し、盲ろう者の福祉の増進につなげる。

### (2) 調査対象

市内で在宅生活している盲ろう者

視覚・聴覚の両方に障害のある市内の盲ろう者47名(令和元年6月27日時点)

※うち24名に対し調査ができた。

### (3) 調査の方法

訪問調査 盲ろう者の自宅を訪問のうえ、直接、盲ろう者から聴き取り調査を行った。

(調査員1名、通訳・介助員1名、市職員1名の3名一組で実施)

### (4) 調査期間

令和元年7月～令和2年1月

### (5) 受託事業者

NPO法人千葉盲ろう者友の会(当事者及び支援者の団体)

## 2 調査結果(抜粋)

項目	内容
(1) 年齢	調査を行った24名のうち12名(50%)が70代以上の高齢者
(2) 視聴覚障害の組み合わせ	・視覚3-6級 聴覚1・2級 → 2名(8.3%) ・視覚1・2級 聴覚3-6級 → 11名(45.8%) ・視覚3-6級 聴覚3-6級 → 5名(20.8%) ・視覚1・2級 聴覚1・2級 → 6名(25.0%)
(3) 最も円滑な受信コミュニケーション方法	音声16名(66.7%)、触手話1名(4.2%)、弱視手話1名(4.2%)、文字(筆談・空書き・てのひら書き)2名(8.3%)、その他2名(8.3%)、特にない2名(8.3%) ※音声は耳元で大声で話せば聞こえたり、補聴器や人工内耳をつけることで聴き取りが可能等
(4) 会話頻度	「1か月に1~2日程度」から「まったく会話していない」の方が6名(25%)
(5) 外出頻度	「1か月に1~2日程度」から「まったく外出していない」の方が7名(29.1%)
(6) 就業・通学	就業又は通学をしている方が3名(12.5%)
(7) 災害時の支援者	災害時の支援者がいない方が7名(29.2%)
(8) 生活全般の困難	外に出るのが怖い、外で声を掛けられても返事ができず誤解を招くことがある等の回答があり、外出や他者とのコミュニケーションなどに困難を抱えていることが伺えた。

## 本調査を実施した経緯及び本調査の特徴

### <経緯>

従前にも全国規模の調査（平成24年度）が行われていたが、郵送や電子メールでの調査であり、本人の意向を十分に聴き取れていないのではないかとの懸念があったため、通訳を交えて本人から直接聴き取りを行う形式での調査を千葉盲ろう者友の会が要望していた。

それを受けて、本市が今回の調査を実施したものである。

### <特徴>

従前の全国規模の「郵送・電子メールによる調査」から、今回は指点字等の通訳者が同行し、盲ろう者本人から聴き取りを行う「訪問調査」とした。

なお、今回の調査をきっかけに、新たに5名の方が盲ろう者通訳・介助員の派遣事業の利用者として登録した。（調査前6名⇒調査後11名）

（担当）

千葉市保健福祉局高齢障害部

障害者自立支援課給付班：石井

TEL：043-245-5173 FAX：043-245-5549

E-mail：shogaijiritsu.HWS@city.chiba.lg.jp